

# ■タマバエを調べてみる

二日前に「廊下のむし探検」をしていて、タマバエらしい個体を見つけました。



## タマバエ科 (Cecidomyiidae) の亜科への検索

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1a 跗節第1節は第2節より長い   | Lestremiinae     |
| 1b 跗節第1節は明らかに第2節より短い   |                  |
| 2a R5はR1に接近し、翅頂より十分手前で前縁脈に合流する   | Lesiopteridi     |
| 2b R5はR1と十分離れており、前縁脈とは翅頂近くで合流する  |                  |
| 3a 触角の節は円筒形に伸び、基部は短い; circumfilaは通常♂では曲がりくねっている; ♀では触角末端節に特徴的な短縮が見られる        | Asphondyliidi    |
| 3b ♂の触角基部は明確に伸び、♀では末端節に特徴的な短縮は見られない; ♂の触角感覚子は曲がりくねらない                        |                  |
| 4a Rsが存在し、r-m+Mはしばしば曲がる; 触角の感覚子は相対的に単純                                       | Porricondyliinae |
| 4b Rsを欠如するか、もしある場合には、相対的に短く不明瞭で、♂の触角の多節性(binodose)の節には長くループになったcircumfilaを持つ |                  |
| 5a R5は前縁脈と翅頂か、そのちよつと後で合流する; ♂の触角の節は通常多節で、2~3セットの長くループになったcircumfilaを持つ       | Cecidomyiidi     |
| 5b R5は翅頂あるいはその少し手前で前縁脈と合流する; ♂の触角の節は多節ではない; circumfilaは単純                    | Oligotrophidi    |

注) circumfilaは触角の節を糸のように取り巻く感覚子でPorricondyliinaeとCecidomyiinaeの触角に存在(MNDによる)

## Lestremiinaeの族への検索

- |                                   |              |
|-----------------------------------|--------------|
| 1a M1+2は単純; M3+4はCuと分岐を形成する       | Micromyini   |
| 1b M1+2は分岐する; M3+4はCuと分岐を形成しない    |              |
| 2a Rslはr-mより明らかに長い; M3+4はMから生じる   | Catotrichini |
| 2b Rsとr-mは短く、長さはほぼ等しい; M3+4はMとは独立 |              |
| 3a 単眼は3個; Mの分岐は基部より短い             | Catochini    |
| 3b 単眼は2個またはない; Mの分岐は基部より長い        | Lestrimiini  |

こんな個体です。体長数ミリほどの小さなハエで、どうも写真もはつきりしないのですが、以前からちよつと調べてみたいなと思っていたので、この写真をもとに調べてみることにしました。「日本昆虫目録 第八巻 双翅目」のタマバエ科の項は九大名誉教授の湯

川淳一氏が執筆されていました。そこで、これを手がかりに例によってCINで検索を試みました。その結果、次の論文を見つけました。

J. Yukawa, "A Revision of the Japanese Gall Midges : Diptera : Cecidomyiidae", Memoirs of the Faculty of Agriculture, Kagoshima University 8, 1 (1971).

実に二〇三ページの大作です。この中に検



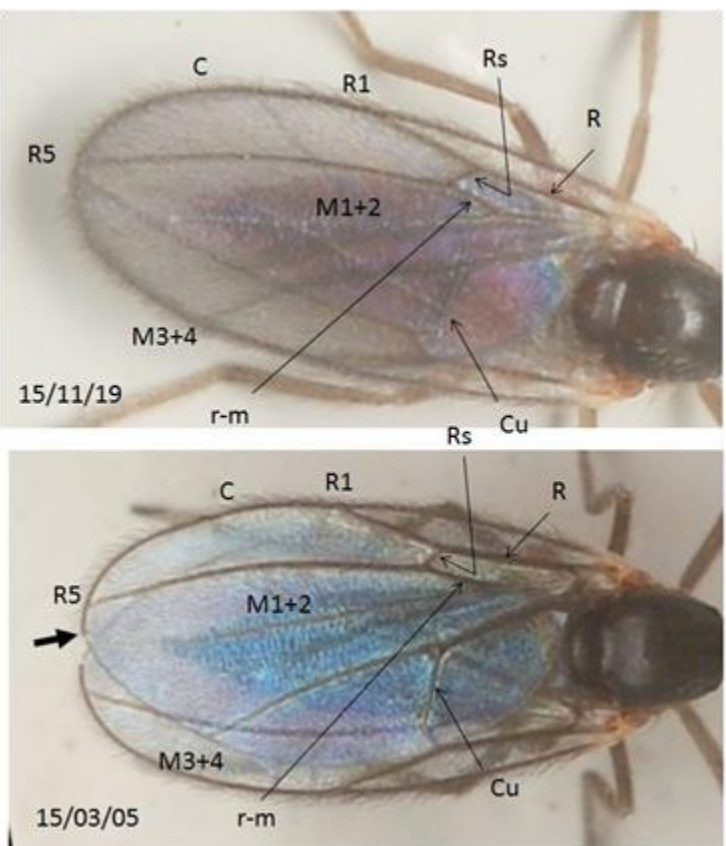
索表も出ていました。

まずは亜科、上族への検索です。例によって私の拙い語学力で訳しているので、間違っているところがあるかもしれません。また、語尾に *nae* とくのが亜科、*idi* がつくのが上族です。早速調べていきます。まず、一で跗節第一節が第二節より長いか短いかという項目がありますが、写真のその部分を拡大してみます。

ちよとぼやぼやしていますが、上の写真で跗節第一節の方が第二節よりもはるかに長いことが分かります。それで決まりで、*Lesremiinae* 亜科になりました。

次は族への検索です。翅脈に関する項目なので、翅の部分を拡大してみます。

上の写真が今回の個体です。ちよと見難いので、同じようなタババエで以前撮影したものについても下に載せてみました。また、翅



Micromyini族♂の属への検索表

- 1a 前縁脈はR5の先端あるいはわずかに越えたところで終わる; 触角基部節はほぼ球形  
Peromyia
- 1b 前縁脈はR5の先端をはるかに越えて伸びる; 触角基部節は通常円筒形に近い(円筒形でない属もある)
- 2a R1は少なくともRsの3倍の長さ; R5の基部の部分に感覚性の孔(sensory pore)を持ち、r-m上には持たない; 爪間突起は爪と同じ長さで広い
- 3a 触角の基部に近い節には末端に近いところに小さな、板状の感覚突起がある; tegmenは中程から末端にかけてくびれ、その部分の背側に突起がある  
Campylomyza
- 3b 触角の節には末端近くに感覚性の刺があるだけである; tegmenはくびれず、中程から末端にかけた突起はない  
Cordylomyia
- 2b R1はRsの2倍を越えないか、もし長い場合は爪間突起はない; r-m上に感覚性の孔があり、R5の基部部分にはない; 爪間突起は狭く、しばしば短い痕跡的
- 4a ...

注) tegmenは♂生殖器の中の構造

脈の名称は現在用いられているものと違いますが、検索表と合わせるため、論文に載っている名称を使用しました。これによると

M1+2は単純な脈で、M3+4とC<sub>u</sub>は途中で分岐しています。従って、またまた一発で決まりで、Micromyini族になりました。この辺りまでは写真で簡単に判断がつきます。

次は属の検索です。

途中まで書きました。♂の検索表なのですが、この写真の個体は♀のような感じですが、♂では触角が発達し、交尾器が違うので検索表は♀には使えませんが、翅脈に関するものは使えるのではと思って試してみました。

まず、最初の1は前縁脈がR5の先端を越えるかどうかなのですが、今回の写真では左右の翅が重なっていてよく分かりません。それで今年の三月に写した個体で見えます。黒い矢印で示したのが前縁脈の終わりでR5の終点を越えているので、1bの方を選びます。実は、タマバエ科では薄い前縁脈が翅を一周していることになっているのですが、ここでは濃く見える部分だけに注目して見ていきます。

次の項ではR1はRsの少なくとも三倍程度の長さがあるので、2aを選びます。次は触角と交尾器についてなので、触角を拡大し

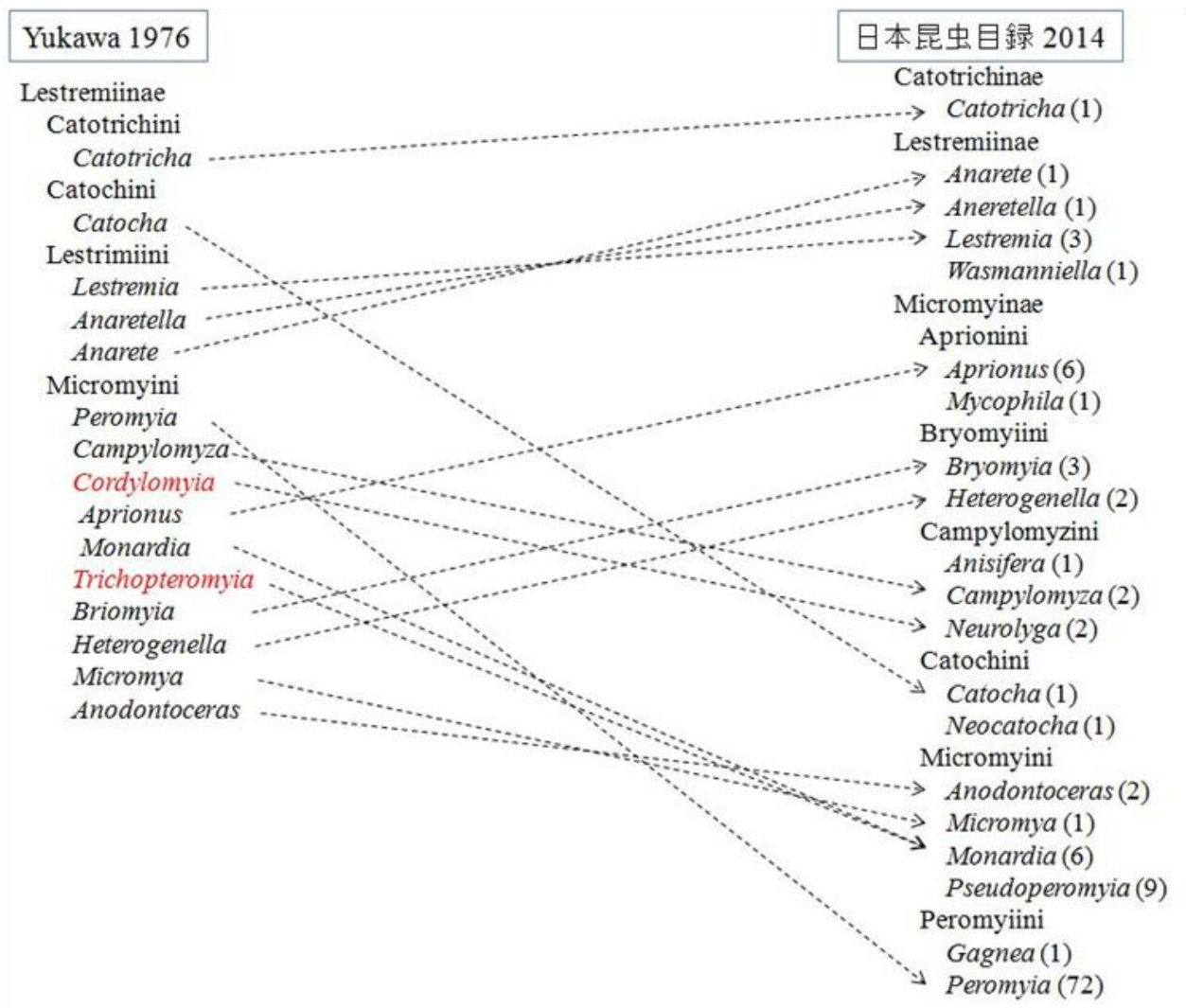
てみましたがはつきりしません。おまけに触角の節数も末端節の部分を一節と数えるのか二節になるのか分からない状態です。ここでストップとなります。従って、Campylomyza属かCordylomyia属のどちらかだということになります。

これらの属にどんな種がいるのかなと思って、「日本昆虫目録 第八巻 双翅目」(2014)を見て愕然としました。そもそもCordylomyia属なんて載っていないし、知らない亜科があるし…。そこで、この論文と「日本昆虫目録 第八巻 双翅目」(2014)の関係をLestremiinae亜科辺りで対応表を作ってみました。

語尾が...で終わるのは族で、斜体は属名です。左の欄の赤字は属名が変化したものです。Cordylomyia属はNeurolyga属とシノニムだということと、そちらに変更になりました。また、Trichopteromyia属はMonardia属の亜属になりました。

さて、問題の *Campylomyza* 属と *Cordylomyia* 属は Micromyinae 亜科の *Campylomyzini* 族に入っていることが分かりました。右側の欄のカッコ内は種数です。左の論文の時点から種数も属数も増えているので、検索表がそのまま使えるかどうかは甚だ疑問なのですが、そのまま押しつけて *Campylomyzini* 族だとすると全部で五種ということになります。それを書き出してみます。

ついでに分布も書き入れました。分布がどれほど当てになるかどうかは分かりませんが、本州では三種ということになります。*Neurolyga* は M3+4 と Cu のなす角が少し鋭角というので論文の図と比べてみるようにも *Campylomyza* 属に近い感じですが。そうなると必然的に *Campylomyza mori* になってしまうのですが、この種の記載論文が見つからないため、ここでストップです。



Anisifera japonica 北海道  
Campylomyza alpina 北海道  
= Campylomyza pinetorum  
Campylomyza mori 本州  
Neurolyga excavata 本州、九州  
= Cordylomyia excavata  
Neurolyga spinifera 本州  
= Cordylomyia spinifera

NeurolygaはM3+4とCuがCampylomyzaに比べるとより鋭角をなす

いずれにしても、こんないい加減な写真からでも、かなり種まで近づけたので嬉しく思っています。ただ、採集していたら、触角の感覚子や翅脈にある感覚性の孔についても見る事ができて、もっと面白かったろうにとちよつと残念に思いました。今度は絶対採集してこよう。。。 (2015.11.21記)